

## 研修のテーマ

## 国語科における「主体的・対話的で深い学び」とは何か

1. 視察期日 平成 29 年 10 月 21 日(土)
2. 視察場所 第 11 回「ことばと学びをひらく会」への参加
3. 研修報告

## (1) 研修の概要

年一回開催される「ことばと学びをひらく会」に、諏訪国語教育学会員を中心とした 10 名で参加させていただいた。基調講演・シンポジウムでは、新学習指導要領で求めている「主体的・対話的で深い学び」を、国語科としてどうとらえるかを学んだ。午後は参加各員が選んだワークショップや講義を受講。そして記念鼎談として「あまんきみこ・工藤直子・中川李枝子」の三氏のお話を伺った。

## (2) 研修から感じたこと

## 基調講演・シンポジウムから

基調講演では横浜国立大学教授高木まさき氏、シンポジウムでは十文字学園女子大学の富山哲也氏、文科省の国立教育政策研究所の学力調査官であられる杉本直美氏や慶應義塾大学教授の鹿毛雅治氏、静岡県河津町立西小学校長の黒田英津子氏らのお話を伺った。

新学習指導要領の改訂で国語科では主に次の点から改善が図られている。

- |                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| 語彙指導の改善・充実          | 情報の扱い方に関する事項の新設      |
| 学習過程の明確化、「考えの形成」の重視 | 我が国の言語文化に関する指導の改善・充実 |
| 漢字指導の改善・充実          |                      |

新学習指導要領では「言葉による見方・考え方を働かせ」とあるが、それは「児童生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることである」ということであり、端的に言い換えると言葉を自覚的に使える力のある児童生徒の育成を目指すということだと感じた。

また杉本氏は「主体的・対話的で深い学び」とはどういう授業を指すのかという問いに「これまで私たちが見てきた、いわゆるいい授業、子どもたちが力をつけていると思われる」授業であり、「特別な新しいものを求めているわけではない」と答えられた。しかし、教師側の授業改善の視点として、より「つける力」を明確にしながら単元の構想を立てていく必要があることをお話された。「新学習指導要領は、以前のものより自由度がある」とも仰っていた。私たちは、より目の前の子どもに即した、価値のある学習材を発掘し、教材化し、子どもたちとともに授業を作っていく、教師側の主体性、教師側の地域や周囲との対話、そして教師の思考の深さが求められると感じた。

## ワークショップから

私は《自分の「ことば」を増やす授業 これからの語彙指導》と題されたワークショップで学ばせていただいた。早稲田大学教授の森山卓郎教授からは「語彙とは何か」「語彙力を高める授業で生かせるヒント」など、言語学的な話をワークショップ形式でお聞きし、佐賀大学の達富洋二教授からは、それを生かせるような実際の授業で扱った学習材や児童の様子などについて伺った。

シンポジウムの中で黒田氏が言われたが、児童生徒を取り巻く環境の変化から「語彙力の低下」が見られる現在、語彙力を高める学習を意図的に扱う必要を感じた。またそうした学習は、学校全体で共有し、系統的に行いながら力をつけていく必要を感じさせられた。

## 記念鼎談から

三氏の年齢を合わせると江戸時代とほぼ同じという高木教授からの紹介から始まった鼎談だが、工藤氏の絶妙な話術が三氏のそれぞれの個性を引き出し、作家になるまでの道のりや生い立ちなどのお話を伺うことができた。戦争を乗り越えてきた三氏だからこその思いを感じられたひと時だった。中川氏は「くじらぐも」を、あまん氏は「白いぼうし」をそれぞれ朗読してくださったが大変貴重なものだった。



## (3) 研修後に感じた自身のこれからの課題

新学習指導要領を読み込むとともに、教科書を教えるのではない、教科書を使って教えられる教師、自分で教材を発掘できる教師を目指したいと感じた。